アゲハの新食草

大塚 勲[1)]

従来アゲハの野外における食草としてはミカン科のカラタチ，ユズ，レモン，ウンシュウミカン，イヌザンショウ，キハダ，ヒロハノキハダ，サンショウ，ゴシュウ，ハマセンダン，カラスザンショウなどが知られているが，これらと同じ仲間である山地性のマツカゼソウ *Boenninghausenia albiflora* MEISSNER が奇妙に報告されていないので，3年前近郊の山地から自宅の庭にマツカゼソウを移植，観察を行なつてきたところ，1964年5月7日，1965年6月7日の2回にわたって産卵を目撃したが，この時は蟻に持ち去られたのか，幼虫がマツカゼソウを食べることは確認出来なかった。しかし1965年8月23日，マツカゼソウ上に終令幼虫を発見，かなりマツカゼソウの葉が食べ荒されていることから，この幼虫はマツカゼソウに産卵されたものが孵化，成長したものと思われ，またこの幼虫が8月29日蛹化のためマツカゼソウを離脱するまでマツカゼソウを食べた事実などから，アゲハがマツカゼソウを食べることが判然としたので，ここにアゲハの新食草としてマツカゼソウを報告する。

マツカゼソウを食べるアゲハの幼虫

ヨスジアカエダシャクとオオヨスジアカエダシャクの混棲地について

宮田 彬[2)]

以前に滋賀県下で採集した蛾を整理していたところ，ヨスジアカエダシャク *Apopeteila morosa morosa* BUTLER とオオヨスジアカエダシャク *A. chlororphnodes* WEHRLI とが混棲している地域が判明したので報告する。

その地は滋賀県坂田郡榑ケ畑附近で，同地でアセチレンランプを使用して夜間採集中，両種が飛来したものである。データは次の通りである。

ヨスジアカエダシャク

1♂, 20–21. VII. 1961 ; 1♂, 11–12. VIII. 1962.

オオヨスジアカエダシャク

1♂, 22–23. VIII. 1960 ; 2♂♂, 16–17. VIII. 1960.

この2種はゲニタリアを検するとはっきり区別できるが，外観もやや異なり，ヨスジの方が幾分小さく，オオヨスジの方が大きく，色彩も両者は互いに似ているが，前翅端の灰白色斑がヨスジでは不鮮明であり，オオヨスジの方は白色で鮮明であった。

井上寛（保育社版蛾類図鑑）によるとヨスジの分布は飛地的であって，関西地方では大阪市の岩湧山が知られているが，オオヨスジの方は分布が広いという。なおヨスジの記録は鈴鹿山系からもあり，「鈴鹿山脈の昆虫，1963」には藤原岳で採れたことが記録されており，またオオヨスジの方は筆者がすでに上記榑ケ畑の記録を発表している（彦根附近の蛾〔II〕，佳香蝶 Vol. 13, No. 47, 1961)。

従来この両者の混棲地として確実にわかつているのは高尾山だけであるが，滋賀県下の榑ケ畑でも明らかにこの両者は混棲しているので記録しておく。なお標本は筆者が所蔵している。

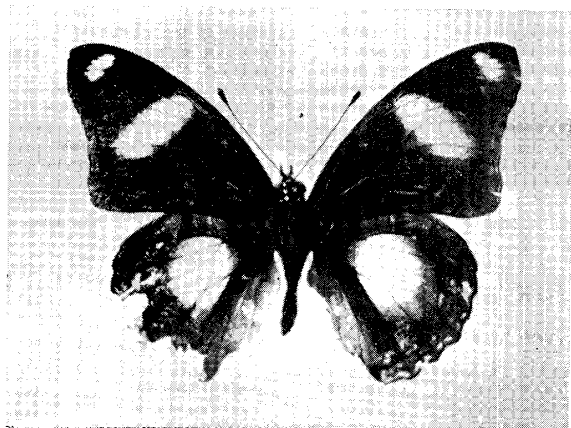
台風直後の神奈川県のメスアカムラサキの採集記録

森下和彦[3)]

24号台風が本州を通過した翌々日，相模湾内に岬状に突出した逗子披露山丘陵に採集に出掛けた私の長男がメスアカムラサキ *Hypolimnas misippus* ♂1頭を採集して来たので記録して置く。（標本写真参照）

1）熊本市健軍町灰塚 2169
2）長崎市坂本町 1699 長崎大学風土病研究所
3）神奈川県逗子市新宿 2-2-16

データ下記の通り。

神奈川県逗子市披露山，1♂，1965年9月19日（快晴無風），森下明彦採集。

逗子披露山丘陵で採集メスアカムラサキ，♂

石川県で採れた蝶3種

武藤 明[1)]

1．スギタニルリシジミ *Celastrina sugitanii sugitanii* MATSUMURA

本種は石川県からは発見されていなかったが，1962年5月25日，白山の六万山で2頭が亀井重郎，林靖彦両氏によって採集された。2頭ともかなり飛び古した個体なので，白山山麓での発生は5月上～中旬頃と推定さる。本種の同定を確認して頂いた白水隆博士に謝意を表する。

2．クロコノマチョウ *Melanitis phedima oitensis* MATSUMURA

能登半島の鹿島町芹川で，1964年8月30日本種の1♀が尾田良知氏によって捕えられた。氏によれば自宅の庭のサクラの根際に止っていた由である。この個体は前翅端の2白斑のうち，下方のものは消失し，上方の斑も発達がわるいが，比較的新鮮である。本種は中部以北の日本海側では発見されておらず，能登での定着の可能性は少いであろう。

3．アオタテハモドキ *Precis orithya* LINNAEUS

本種も中部以北の裏日本では未記録と思われるが，やはり能登半島で採集された。すなわち1965年8月29日，額田豪郎氏は本種1♂を能登小木駅前の花壇で手づかみにし，翌日筆者の許へ持参された。典型的な偶産記録であり，8月下旬の台風により漂来したものかも知れない。

1）金沢市石引2丁目 3-22

キタテハ *Polygonia c-aureum* の黒化型を採集

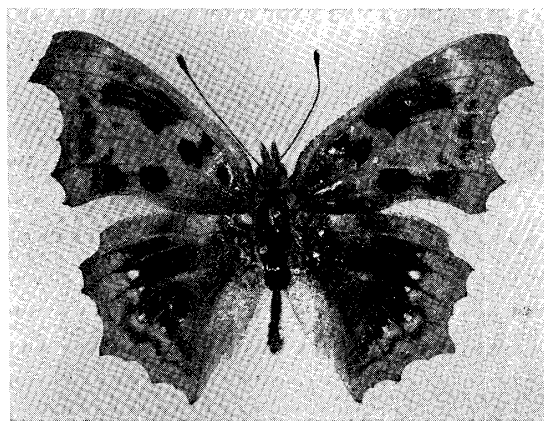
原田基弘[2)]

写真に見られるような，キタテハ *Polygonia c-aureum* LINNAEUS の一異常型を発見（友人のストックより）したので．誌上をお借りしてここに発表させて戴きます。秋型の♂で，斑紋の黒化が著しい。形や大きさは，ほとんど正常のものと変らない。

採集者：　横山英輔

採集月日：　1958年10月2日（晴）

採集地：　横浜市港北区篠原町の横山氏宅の庭

同氏の話では腐熟して落ちた柿に飛来したものだという。なお快く標本を護与された横山氏には深く感謝します。

キタテハの異常型

神戸市のミヤマカラスアゲハ

高崎寿郎[3)]

兵庫県下でのミヤマカラスアゲハの産地は大体中央背梁山脈地帯に知られているが，神戸市内での記録は大変珍しい。神戸市内での記録は1956年6月8日，摩

2）横浜市港北区篠原町 313
3）神戸市兵庫区氷室町1丁目 44